巻 頭 言

技術士にチェンジとは

㈳日本技術士会北海道支部　防災委員会委員長
技術士（建設／総合技術監理部門）
高　宮　則　夫

去る 8 月 30 日に衆議院選挙で自民党が大敗し、永年続いた自民党政権に終止符が打たれた。民主党には、「政権交代」という大きな追い風があった。9 月 16 日、鳩山由紀夫総理大臣とする内閣が発足した。「脱官僚政治」、「政治主導」を掲げ「国家戦略局」がどのような日本のビジョンを描くのか期待したい。また、北海道から初の総理大臣であり景気低迷が続く道内経済の立て直しに大きな期待がかかっている。

アメリカでは、初のアフリカ系アメリカ人の民主党、バラク･オバマ氏が、今年 1 月に第 44 代のアメリカ大統領に就任した。「チェンジ！　イエス、ウイ、キャン」=「変えよう！　そう、われわれは出来るんだ」の言葉を掲げて勝利をつかんだ。彼によって多くの若者や弱者が勇気づけられたという。

日本もアメリカも、これまでの社会・制度・体質からのチェンジに国民は期待しているのである。

このような背景の中、技術にも「チェンジ」が必要と感じるニュース・事故があった。

一つは、8 月 11 日の早朝に静岡県沖でおきた震度 6 の地震が東名高速道路の盛土のり面を崩壊し、この大動脈を通行止めにしたニュースである。お盆という最も需要の高い時期であり、お盆帰省客など利用者に多大な影響を与えた。一日の平均交通量が 43 万台を超える大動脈であり、迂回ルートの中央道、国道 1 号線はすぐに渋滞が発生した。復旧には 5 日間かかり、16 日午前 0 時に全線開通となった。

二つ目は、8 月 25 日早朝に気象庁は「千葉県東方沖を震源とする震度 5 弱以上の緊急地震速報」を発表した。しかし、時間になっても揺れが観測されず誤報であったことを発表した。

鉄道事業者は路線の全車両を緊急停止に、自治体では防災無線で速報を流すなど対応に追われた。

誤報の原因は、ソフト会社の誤改修と気象庁のチェック不足であった。ソフト会社は一ヶ月の指名停止、同庁担当者は注意処分とされた。この二つのニュースを通していくつかの問題がみえてくる。

第一に、我々建設技術者には、市民が安全で安心に暮らせる社会・経済基盤を維持する責務があり、いかなる想定外な地震や豪雨であっても人的・経済的被害を最小限にするシステムと対策を備えておく必要がある。今後、東名高速における盛土部での耐震に対する抜本的な再点検が求められる。今回の事故を教訓に国民からの信頼を取り戻して欲しい。

第二に、これまでの予知できない自然・人為的災害からみえることは、危機管理体制やマニュアルは「必要条件」であっても「十分条件」でないことである。大事なことは「知識」よりも災害に対する日頃の「意識」であると考える。

最後に、これらの要因には、教育、学問、産業、行政など日本のあらゆる分野で専門化・分業化が進んだ縦構造社会にあるといえる。技術士建設部門をみても、土質、河川、道路等 11 分野に専門化･細別化されている。多様性・創造性・個性を求める時代にこのシステムは機能しているのだろうかと疑問を持つ。特に、防災・危機管理においては、専門領域を超えた総合的な能力・技術をもつ人材、技術士が求められる。アメリカのチェンジ、日本の政権交代、我々技術士も、これまでの制度に対して「チェンジ」の視点を持って見直すことが必要な時期になっている。